

彦春町茜

文想感書誌
論本體

第20回
S
第24回
合併号

読書感想文

『国体論』

第20回～第24回合併号

著者：茜町春彦

概要：白井聡著『国体論（集英社新書）』を少しずつ読み進めながら、感想文を投稿しています。
この記事は第20回から第24回の合併号となります。

読者対象：戦前、戦後、そしてこれからの国家体制に関心のある人

国体論：7章の1～7章の5

安田善次郎刺殺事件とかコミンテルンとか北一輝とか226事件などを題材にしながら、戦前の国家体制の形成から崩壊していく過程を簡潔に解説しています。意外に面白かったです。

ちょっと引用します。

(P259)・・・北に言わせれば、明治維新による封建制の廃止から大日本帝国憲法の制定に至る過程を経て、日本の国体は紛れもない「公民国家」となったのであり、万世一系の標語によって、あたかも日本の国土と国民を天皇の所有物であるかのごとくに論じる国体論は、人類の発展史に逆行する「復古的革命主義」なのであった。このような北の明治維新観と社会進化論は、政治的にラディカルな含意を持つ。すなわち、国家が「公民国家」的状态を成立させ、さらにそれが一層高度化することによって、貧困が撲滅され、社会的平等が実現し、犯罪がなくなるといふ・・・この発展の大道における画期をなす出来事であるという意味で、北は明治維新を高く評価している。そしてそれと同時に、このような爆発的発展の軌道へと社会が歩みを進め始めたはずが、藩閥権力は政治を壟断し、財閥は私利を貪るのみで社会発展を停滞させ、また御用学者(=国体論者)は時計を反転させるイデオロギーを説くことで自己保身に汲々としているという現状に対して、北は怒髪天を衝く怒りを爆発させているのである・・・

引用を終わります。

いま北一輝が生きていたら、現政権に対しても怒りを爆発させるような気がします。まあ、分かりませんがね。利権を漁る政府高官と経済団体と御用学者。足りないのは、軍部ですか・・・

(次回へ続く)

後書き

参考文献：

次の文献を参考にしました。

- 国体論：2018年4月22日第1刷発行 白井聡著 集英社新書

C G画像：

次の画像処理ソフトウェアを使用しました。

- ArtRage 3 Studio Pro アンビエント社
- Photoshop Elements 10 アドビシステムズ株式会社

著者：

茜町春彦（あかねまちはるひこ）と申します。

2004年より活動を始めたフリーランスのライター&イラストレーターです。独自のアイデア・考察を社会に提示することをミッションとし、平等で自由な世界の構築を目指して創作活動を行なっております。また、下記WEBサイトに於いても、デジタル作品を公開しております。

- YouTube （動画共有サイト）
- Google+ （ソーシャルネットワークサービス）
- 楽天Kobo電子書籍ストア （ネットショッピングサイト）
- はてなブログ （WEBLOGサービス）
- Facebook ページ （ソーシャルネットワークサービス）
- Pixiv （イラスト投稿サイト）
- カクヨム （小説投稿サイト）
- BOOTH （物販サイト）

その他：

製品名等はメーカー等の登録商標等です。

本書は著作権法により保護されています。

2018年6月9日発行

読書感想文『国体論』第20回～第24回合併号

<http://p.booklog.jp/book/122462>

著者：茜町春彦

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/akaneharu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/122462>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト